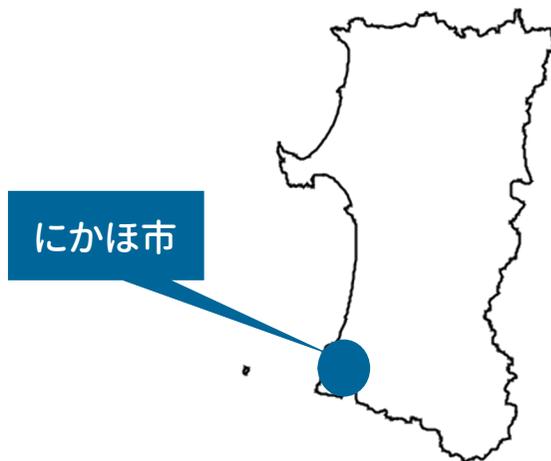


秋田県にかほ市

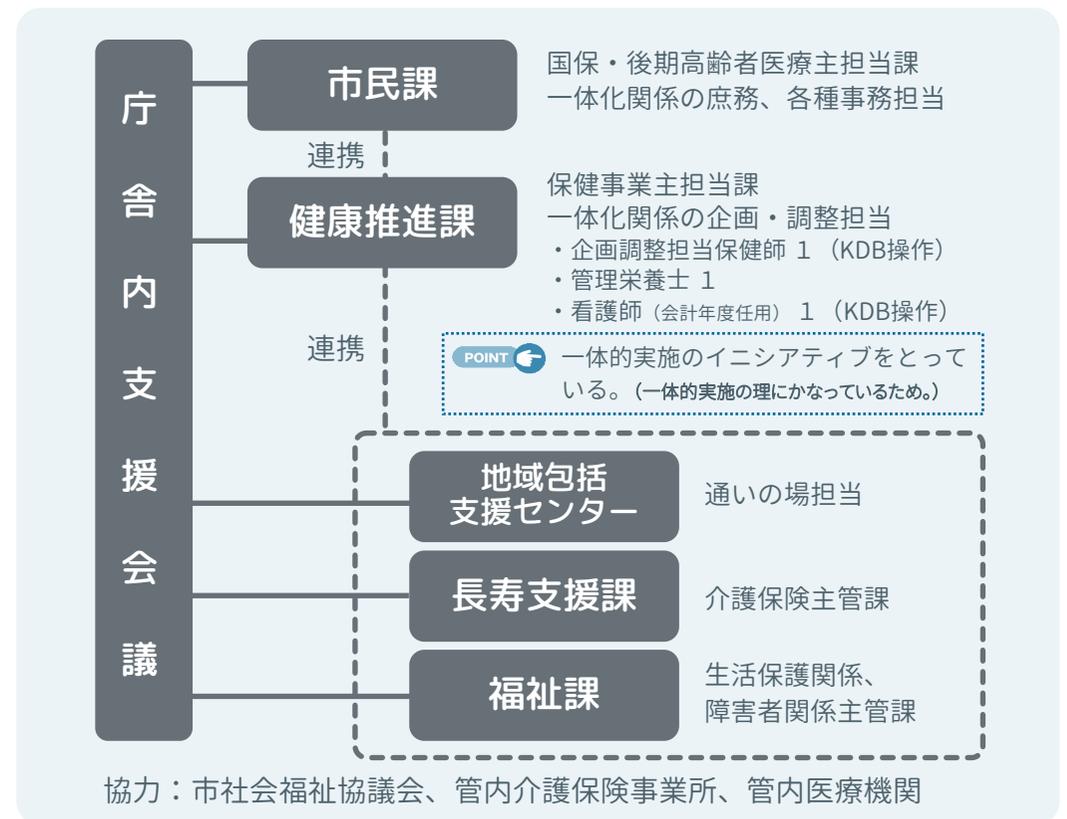
- 👍 地域の医療関係団体(三師会)と一体的実施に関する共有会議を設置。医師等多職種からアドバイスが得られる体制が構築されており、ハイリスク保有者等に対してきめ細やかで効果的なアプローチを実施。
- 👍 地域のプロサッカーチーム等と連携し、健康寿命延伸に向けて様々な取組を実施。

●にかほ市の概況 (令和4年1月31日時点)

人口・・・・・・・・・・23,451人
後期高齢者被保険者数・・・4,818人
高齢化率・・・・・・・・・・39.12%
日常生活圏域数・・・・・・・・1



●実施体制



取組経緯

国民健康保険と後期高齢者医療の間に隔たりがあり、高齢者になると年々フレイル状態や介護状態になる可能性があるにも関わらず、継続的に保健事業が行えていないというジレンマがあった。

そのような中、国から、一体的実施について令和2年度からスタートする旨の情報を得て、令和2年4月開始に向け、国保・後期高齢主管課において、実施体制の検討を前向きに即着手。保健事業を所管する課に協力要請し、同課に企画調整等を担当する職員を配置するとともに、一体的実施に係る担当班を設置し、国保と後期高齢の隔たりを無くした保健事業に取り組んだ。加えて地域包括支援センター等介護担当部門との連携を強化した。

それと同時期に、地域のプロサッカーチーム等との「にかほ市健幸プロジェクト」が締結され、より健康に関する事業化の機運が高まった。

企画・調整等

● 庁内連携

● 一体的実施に関する庁舎内支援者会議を設置

一体的実施に関係する全部署が出席する会議の場を設置。（P1実施体制参照）

● 庁内における情報共有

要フォロー者出現時は、その都度関係部署間で情報共有を図ったうえで連携し対応している。

★最近の事例

新型コロナウイルス予防接種の際に気になるケースが見られることが多かったため、保健師にリストアップを依頼。該当者について後日関係各課と情報共有を図っている。

POINT



人事も含めた組織的な理解と日頃の良好な庁内の連携・協力体制により、本事業の早期開始へとつながった。

● 医療関係団体との連携

● 一体的実施に関する医療関係団体との共有会議の設置

一体的実施の事業計画やその評価、意見をもらう場として設置し、医師会、歯科医師会及び薬剤師会から委員として出席。個々の事例に対して、それぞれの分野の専門職の視点で様々なアドバイスが受けられる場となっている。

★最近の事例

後期高齢者の口腔健診では、当初、機能面で問題のある人を対象としていたが、歯科医師より、自覚症状のある人は口腔内機能の問題がなくても困っており、スポットを当て訪問してはどうかとの助言を受け、対象者の選定に活かしている。

◆ハイリスクアプローチ①

● 健康状態不明者に対する訪問

一定期間、特定健診や医療機関を受診していない人を対象者とし、個別訪問により健康課題を明確にし、必要なサービスにつなげる。

★成果 継続フォロー者の掘り起こしや、32.4%が医療機関受診や特定健診受診へとつながった。

● 重複頻回多受診・高血圧未治療者・多剤内服者に対する訪問

秋田県後期高齢者医療広域連合が前年度のレセプトから対象者を抽出。個別訪問により状況把握するとともに、適正受診等につなげる。

★成果 薬剤師会の薬剤師とアウトリーチ型訪問を実施し、主治医へのトレーシングレポート提出等により減薬につながる事例も！



● 低栄養者に対する家庭訪問

前年度の特定健診結果でBMI18.5未満の人であって、フレイル予防栄養教室不参加者が対象。個別訪問により健康課題の明確化や各種教室への参加を促す。

★成果 地域包括支援センターにつなげる必要がある人を発掘できた！

● 糖尿病重症化予防訪問

今年度の特定健診結果から、糖尿病が重症化するリスクの高い未治療者・治療中断者を訪問し、医療機関の受診に結びつける。

POINT ← 特定健診の結果が出てから1週間以内に訪問を実施。フォローアップの旬を見逃さないのが保健師の役割。



☑課題 在職中から高値である未治療者も多く、将来的には企業とのタイアップも必要。

◆ハイリスクアプローチ②

● オーラルフレイル者に対する訪問

後期高齢者歯科口腔健診の結果、機能面で問題のある人や口腔乾燥のある人に対し、歯科衛生士によるアウトリーチ型口腔指導を実施。医療や口腔機能教室（地域包括支援センター主催）への参加に結びつける。



POINT



歯科医師の助言を得て、機能面では問題がないが口腔乾燥で精神科内服薬が処方されている場合は、薬剤師による訪問を実施。

● 緊急受診勧奨訪問

今年度の特定健診結果において著しく数値が悪い人に対し受診勧奨訪問をし、早期精検に結びつける。

POINT



特定健診の結果が出てから1週間以内に訪問を実施！受診後間もないため受け入れてもらいやすい。
なお、後期高齢者の健康寿命の延伸には壮年期からの働きかけが不可欠であり、40歳からを対象者としている。

POINT



対象者との対面率を上げるための工夫

何度訪問しても対面出来ない対象者については、地域を熟知している民生委員や健康推進員を活用。
その結果、令和3年度の実績（11月現在）は、対面率100%となっている。

◆ポピュレーションアプローチ

●フレイル予防出前講座

通いの場である各自治会のサロンに出向き、血圧測定、健康講話、体組成測定、結果説明を実施。地域包括支援センターとのタイアップ。プレフレイルが認められた方には、各種教室への参加を勧奨。

●フレイル予防「栄養教室」・「運動教室」

前年度及び今年度の特定健診結果でBMI18.5未満の人やフレイル予防を心がけたい人を対象に実施。

フレイル健診



健康バスツアー



フレイル予防運動教室



フレイル予防栄養教室



POINT



フレイル健診サポーターの養成「サポーター人材育成講座」

現在、60～80歳前までの約30名が登録。講座修了後、フレイル健診の補助に入ってもらおう。

<参考>にかほ市健幸プロジェクト

秋田県を拠点に活動し、にかほ市とゆかりのあるプロサッカーチームとそのスポンサー企業が連携し、にかほ市の健康寿命の延伸に取り組むプロジェクト。

STEP1 健康状態チェック

スポンサー企業との連携によるフレイル健診等の実施

STEP2 健康プログラム

プロサッカークラブ専属のトレーナーや管理栄養士によるフレイル予防教室、フレイル予防栄養教室等の実施

STEP3 健康状態チェック 行動変容チェック

スポンサー企業との連携によるフレイル健診等の実施